

「一つの御霊による一つのからだ」

コリント人への手紙第一 12 : 13

August.9.2026

## コリント人への手紙第一 12 : 13 (パウロ)

### Preface

今朝は、敗戦記念・コイノニア報告礼拝となります。

後ほど、7月30日から8月3日の4泊5日で行われた中高生コイノニアの写真・映像をご覧頂きたいと思っておりますが、今朝先ず紹介したいのは、私がいつも使っているクリアファイルとは違うコイノニア20周年記念クリアファイルです。

持っておられる方もいらっしゃると思いますが、コイノニアの歴史が一目で分かるような写真が散りばめられています。

若い頃の清野先生、大方教会前主任牧師の林丙俊先生、竹腰長老、竹長と手を繋いで歩いた具ヨンソ長老、吉先生と清野先生が一杯のカフェラテを分け合って飲んでいるラブラブ写真とか、保浦先生、井上先生、コイノニア留学生1号の方の写真、半ズボン姿のちょっとスリムな松浦さん、婦人コイノニア、壮年コイノニア、TEENS コイノニア、青年コイノニア、そして、今よりも25kg程重かったはち切れんばかりのお肉がパンパンな私の写真だったり、色々と見入ってしまうような、コイノニアの歴史を一目で見られる貴重なクリアファイルです。

これを見ているだけでも、思わず笑顔がこぼれるコイノニアの恵みの歴史が刻まれているクリアファイルです。

また、コイノニアのことがよく分かる、読み始めたら止まらないコイノニア20周年誌もあります。

日本同盟基督教団に属する253教会では毎年、81年前の戦時体制下、日本の政策として行われた朝鮮や中国をはじめアジア諸国に対する侵略と植民地支配、天皇を崇拝させるための神社参拝に日本の教会が協力した罪・戦争責任を顧み、反省し、二度と同じ過ちを犯さないようにと、また、世の光として、具体的に神から委ねられた和解の務めを成して行くよう祈りの時を持つようにと勧められ、平和祈祷会を行っています。その具体的な実践と実例がこのコイノニア記念誌にすべてまとめられていると言っても過言ではないような内容の記念誌だと思います。

コイノニアのことをあまりご存じない方もいらっしゃるかと思いますが、今日は、このコイノニア記念誌と共にコイノニアクリアファイルを受付にご用意してございますので、まだお持ちでない方はぜひお持ち頂いて、お読み頂ければと思います。

### Part One

今年のコイノニアは、TEENS の中高生たちとその教師たち 41 名で大方教会を訪問致しました。

中高生コイノニアで大方教会を訪問するのは 11 年ぶりとなります。

29 年に及ぶ私たちめぐみ教会と大方教会のコイノニアの交わりは、この中高生コイノニアから始まり、5 年に一回、教会に集う中高生たちが、中高生の時代に必ず一回はコイノニアを体験出来るようにと思い行ってきましたが、コロナ禍があり、その間中断せざるを得ませんでした。

そんな中ようやく去年は、大方教会の中高生たちがめぐみ教会を訪問し、今年めぐみ教会の中高生たちが大方教会を訪れ、去年から今年にかけてのコイノニアは正に、念願の中高生コイノニア復活の時となりました。

これまで両教会に沢山の恵みをもたらした中高生コイノニアは、主からの大切で特別な祝福でありますし、大方教会とめぐみ教会にとってなくてはならない一大行事、恵みだと思えます。

中高生コイノニアを通して、これまで多くの受洗者が生み出されてきました。また、信仰復興が起こってきたように思います。

大方教会の若者とめぐみ教会の若者の嬉しい結婚もありました。

来年は、日韓コイノニア 30 周年となりますが、このコイノニアの交わりが、主イエス様が再び来られるその日まで続き、両教会にとって、これからも豊かな恵みとなり、祝福となることを今一度新たに期待するような、今年の中高生コイノニアだったように思います。

## Part Two

また、私個人的にも、色々な面で感慨深いコイノニアとなりました。

私が、初めてコイノニアの交わりに関わらせて頂いたのは大学 4 年生の時だったと思いますが、当時ほんの少しだけ韓国語が出来るという理由で、通訳の奉仕に携わらせて頂きました。

その時から約 26 年後、26 年前はどなたと結婚するのかさえも見当が付きませんでした。今年の中高生コイノニアには、一緒に我が家の次男と三男が中高生として参加することが出来ました。

私だけでなく、引率をされた TEENS 教師の方々の中にも、かつて中高生として参加した方もおられましたし、私と同じようにご自分のお子さんと一緒に参加された先生もいらっしゃいました。

正に、29 年間に及ぶキリストにある和解の交わりの、感慨深い、喜びの実りを味わわせて頂く時でした。

さらに、私にとっては奇跡のような光景を見させて頂いたように感じました。

私の父は、今から約 100 年前に、日本によって植民地支配されていた朝鮮半島から日本に渡って来た、元日本国籍所有の日本人でした。

もっと正確に言いますと、朝鮮人であることを無かったことにされ、無理矢理日本国籍を取得するよう強要された元日本国籍の日本人として日本で生きるようになりました。

ところが戦後、今度は、その日本国籍をこれまた無理矢理剥奪され、国際的には事実上の無国籍状態となり、日本国内のみで通用する朝鮮籍という謎の籍を否応なく所有させられた、差別と蔑視の中、石川恒久という日本名を名乗りながらその人生を生き抜いた、所謂在日朝鮮・韓国人が私の父です。

ですので、私も物心がつく前から気が付いた時には、洪豊和（ホン・プンファ）という本名ではなく、石川豊和という通称名で生きていました。

私が小学校に入りますと、高校3年生になるまで毎年欠かさず父は、学校の担任の先生に必ず、お中元とお歳暮をお届けしながら、在日韓国・朝鮮人であるということが理由で、私が学校生活の中で出来る限り差別や蔑視を受けるようなことがないようにと取り計らってくれました。

そろばん、習字、ピアノ、塾などの習い事の先生方にも、そうしていました。

また、私が新しい先生に出会う度毎に、決して明かしてはならない家族の秘密を明かすかのように父は、「実は、私たち家族は在日韓国人なので、何卒よろしく願います」と、自分よりも大分若い年下の先生方に深々と頭を下げながらご挨拶に伺っていました。

そんな父を見ながら育った私には、当然のように、在日韓国・朝鮮人であることを、この日本社会を生きる上では決して明かしてもならないし、バレてもいけないし、もしバレたら大変なことになるという警戒心と言いましょ、緊張感のようなものが自然と身についてしまったように思います。

そんなんでしたので、半ば、私自身のことを日本人だと思っていたと言いましょ、思わされながら生活していて、「馬鹿でもチョンでも出来る」という言葉を皆さんご存じでしょうか、「チョン」という言葉が朝鮮人や韓国人を指す差別用語だということも露知らず、小学生の頃から大学3年生のクリスチャンになるまでの間、普通に使っていました。

じゃあ今は、そういう差別はないのかと言いますと、そんなことはなく、私がめぐみ教会の主任牧師となった時に、郵便局に代表役員の名義を清野先生から私の本名である洪豊和（ホン・プンファ）に変更をしに行った時には、対応して下さった窓口の方に真顔で、（悪気はなかったんですが）「日本の名前はないんですか？」と訊かれたり、また、「同盟教団で一番大きい教会の主任牧師が、何で韓国人なんでしょう？」と、面と向かって言われたりすることもありました。

長い間、そんな風に当たり続けてきましたので、当然のように私の中に、「在日韓国・朝鮮人であることは、何としてでも隠し通さなければならない」という警戒心と緊張感が醸成されて行きました。

ですので、小学校の頃から大学3年生のクリスチャンになるまで、誰にも、一番仲の良かった友達にさえも、私が在日韓国・朝鮮人であることを明かしたことはありませんでした。

たぶん、これまで学校で出会った私の周りの友人の中にも、私と同じような

境遇の友達はいたんじゃないかなと思いますが、今となっては分かりません。

そんな私にとって、このコイノニアの交わりは、奇跡のような交わりです。

日韓の歴史を無かったものとして看過するのではなく、大方教会とめぐみ教会の間に結ばれたコイノニア宣言文にもありますように、「両国の不幸な歴史を心にとめつつ、神の家族の一員として、キリストにある豊かな交わりを熱心に求めていく」、日本人と韓国人が共に喜び、共に笑い合っているコイノニアの交わりは、私にとっては正に奇跡のようでしかありません。

特に、中高生の頃、自分が在日韓国・朝鮮人であることを明かせなかった私にとって、中高生コイノニアに参加した日韓の中高生たちが一つになって互いを喜び合い、笑い合い、祈り合っている姿は、神の国そのものでした。

穏やかな、大きな恵みに満ちた感銘を受けました。

国籍とか、言葉とか、文化とか、背景とか、血縁の違いなどによって人を蔑視したり、差別したりするのは皆無な、今日の御言葉、第一コリント 12 : 13 にあります「私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、韓国人も日本人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです」という光景が、そこにはありました。

### Part Three

創世記 2 : 7 にあります通り、三位一体の神様によって神の霊を吹き込まれ一体となって生きる者として造られた人間が、神の霊にそぐわない墮落と暴虐に満ちて、ずたずたにその仲を引き裂き、壁を作り、国を作り、国境を作り、民族を作り、それぞれに異なる文化を作り、一体とは相容れない罪なる独自性なるものを作り上げて行った葛藤関係に陥ってしまったこの世界に、私たち人間に、主イエス・キリスト様は、ご自分の命を懸けて、再び、「一体となる」という人が本来神から与えられていた、人として最たる特徴を回復する道を備えて下さいました。

一体となって生きる道を、人が人らしく、神の似姿に造られた人間の最たる特徴である「神にあって一体であること」を喜び、享受し、生きられるよう、父、御子イエス、御霊なる神様の三位一体の神が、私たちに備えて下さいました。

今日の聖書箇所通りにですね。

### コリント人への手紙第一 12 : 12 - 13 (パウロ)

かつて人は、御霊、つまり神の霊を吹き込まれて一つとされたにもかかわらず、一つであることをずたずたに引き裂いてしまった私たち人間に、神は今一度、イエス・キリストの十字架を通して、私たち人を、キリストをかしらとする一つのからだへと造り変えて下さいました。

本来の人の姿へと、回復させて下さいました。

本来、人が持っていた喜びを回復させて下さいました。

### Conclusion

最後に、1999年に大方教会とめぐみ教会との間に結ばれた「コイノニア宣言文」を読み、また少し長いのですが、日本同盟基督教団から提示された「戦後80年の祈り」を読んだ後、今年の中高生コイノニアの映像をご覧頂きながらメッセージを終えたいと思います。

#### コイノニア宣言（パワポ）

韓国ソウル大方教会と日本土浦めぐみ教会は、大方教会の一家を通して始まった交わりを、神の摂理にある「めぐみの出会い」と確信するに至り、ここに共通の救い主イエス・キリストにある新たな関係の樹立を願い、以下のことを宣言する。

- 1、 両教会は、1996年に始まった過去数年間における、中高生や指導者たちの相互訪問を通して与えられた、教職や教会員同士の幅広い交わりを心から感謝する。
- 2、 両教会は、お互いが主イエス・キリストを頭とするキリストのからだに属する教会であること、またお互いが神の家族の兄弟姉妹であることを、喜んで告白する。
- 3、 両教会は、日韓両国の間に横たわる、文化的違いを越え、また両国の不幸な歴史を心にとめつつ、神の家族の一員として、キリストにある豊かな交わりを熱心に求めていく。
- 4、 両教会は、教会の頭である主イエス・キリストの大宣教命令の遂行を共通の運命と確信し、神の国の進展のためにお互いの力をもって協力することを決意する。

両教会は以上の宣言をし、両教会間の交わりと協力が豊かな実を結ぶために、それぞれの教会内にコイノニア委員会を設立し、新たな関係が神の栄光を現わすことを祈りつつ、ここに姉妹教会関係を締結する。

主の紀元                      1999年10月10日

大韓イエス教長老会    大方教会  
主任牧師    林丙俊

日本同盟基督教団    土浦めぐみ教会  
主任牧師    清野勝男子

## 戦後 80 年の祈り (パワポ)

2025 年 8 月 日本同盟基督教団

私たちは戦後 80 年にあたり、平和をつくる者として、次のように神の御前に祈ります。

戦後の歩みを顧みて私たち日本同盟基督教団は、戦争の時代に犯した多くの過ちを自分たちの罪として告白します。しかし戦後の歩みを顧みれば、私たちは相当の間、これらの罪を自覚せず、自分たちの課題として受け止めることができませんでした。ただあなたのあわれみにより、この課題に向き合う者たちが起こされ、戦争協力と偶像礼拝の罪についての認識が分かち合われ、敗戦から半世紀近くを経て、教団として公に悔い改めの告白をすることができました(1991 年宣教 100 周年記念宣言、1996 年横浜宣言)。

私たちは改めて告白します。私たちは戦時体制下、日本の政策として行われた朝鮮や中国をはじめアジア諸国に対する侵略と植民地支配、天皇を崇拝させるための神社参拝に協力しました。また、宮城遥拝、君が代斉唱、神社参拝を国民儀礼として行い、これが偶像礼拝に当たることを見抜くことができませんでした。これらは「あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない」(出エジプト記 20 章 3 節)、「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」(マタイ 22 章 37～39 節)という戒めに背く罪でした。私たちは、同じ過ちを二度と繰り返さぬよう悔い改めに立ち、あなたと隣人を愛して歩みます。

### 神の平和を求めて

今年、「世界終末時計」は、その開始以来、最も短い「残り 89 秒」になりました。世界には戦火を交えている国々や地域があります。核施設への直接攻撃もなされ、核兵器が使われる緊張が高まっています。主イエスが「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます」(マタイ 26 章 52 節)と言われたように、戦争に本当の解決はありません。むしろ、さらなる暴力の応酬、憎しみの連鎖を生み出します。

私たちは、あなたの愛に生きることには希望があると信じ、あなたの平和を求めます。戦争で傷ついている人々や格差と分断に苦しむ人々の叫びに耳を傾けます。あなたの平和と正義を願い求め、武力に頼ることなく、共生する世界となるよう、とりなし祈ります。アジアをはじめ世界の兄弟姉妹と語り合い、交わりを深めます。また、戦争の悲惨な記憶を学び続け、次の世代に継承します。みことばに従って為政者たちのために祈り、正しいことには協力し、正しくないことには反対の声をあげます。「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」(マタイ 5 章 9 節)

### 約束の完成を目指して

父なる神よ。あなたは、キリストの再臨の時に完全な勝利と平和を約束して



おられます。私たちは途上にある教会として、この世の苦難を受け止めながら、忍耐強く勇気をもって約束の完成を目指して進みます。私たち教会は、「聖霊によって召し出された神の民、主イエス・キリストをかしらとするからであり、羊飼いなる主の御声にのみ聴き従う羊の群れ」として（日本同盟基督教団信仰告白第7項）、主の祈りを祈ります（マタイ6章9～13節）。

天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。

—私たちはあなただけを神とします。あなた以外のものに身も心も支配されることなく、福音の自由に生き、あなたをほめたたえて歩むことができますように。

御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

—私たちは誠実に愛のわざをささげます。あなたのみこころがこの地で実現し、御国があらわされますように。

私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

—私たちはあなたの恵みを分かち合う者となり、あなたの造られた世界を喜びます。格差と分断に苦しむ人々に、あなたの助けを願い求めます。

私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。

—私たちはあなたに赦された者として、赦し合う交わりをつくります。私たちの罪と汚れをお赦してください。

私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。

—私たちはあなたの御声に聴き従います。この世の富の誘惑や、権力と武力の脅威からお守りください。

国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。

—私たちはあなたの真実に信頼して歩みます（Ⅱテモテ2章13節）。あなたは、人の思いを遥かに超えて、最後にはすべてを最善に導いてくださいます。あなたの栄光が永遠にほめたたえられますように。

アーメン

では、ここで、今年の中高生コイノニアの映像・写真をご覧ください。  
お祈りいたします。

祝祷：コリント人への手紙第一12：13